

「市長と語ろう！」 大学生世代ミーティング【概要】

平成29年12月9日（土）

10時30分～12時

立川市役所

1 開会の挨拶

（市長）

おはようございます。休日の午前中、立川市役所まで来るといのはかなりのエネルギーを消費されたと思います。お集まりいただきありがとうございます。

超高齢化・人口減少社会に向けてどのような方向でまちの運営、経営をしていくかということが、どこの首長さんも一番の悩みだと思っています。立川では、昭和40、50年代は人口が約10万人でした。今は18万3,000人になっています。まだ人口減には入っておらず、微増しているのですが、一過性のものであると思っています。

立川は実は農家がたくさんあります。旧砂川地域、五日市街道を中心として農家があり、畑が多くあります。生産緑地という指定をしている畑だけで、約250ヘクタールぐらいあります。それ以外の空地を入れると約280ヘクタール、まだ宅地になっていない土地があります。立川には、大きい川がなく、小さい川が数本あります。武蔵村山を水源として南へずっと下って、南口の柴崎町から富士見町へ行って多摩川に入っている、残堀川があります。それ以外に山はほとんどなしと言っても過言ではないですが、標高13メートルという金比羅山というのがあります。玉川上水を掘ったときに出た残土をそこに積み上げて、金比羅山信仰をしている人たちが、その残土で山をつくったというのがあります。立川では、簡単に畑を宅地にすることができます。そういう面もありまして、農家が一家の大黒柱を失って相続が発生したときに、相続税を払うために土地を売ります。いわゆる宅地の提供が毎年毎年、少しずつ途切れることなく続いていくと思います。

そういう面から言うと人口増の可能性はありますけれども、高齢化は避けることはできません。高齢化と同時に、お年寄りの夫婦2人だけとか、あるいは片方の連れ合いを亡くして1人だけとか、そのような世帯が増えていきます。そうしますと、福祉部門での消費が多くなり、生産的なものはなくなってくるわけですから、どんどん財政的には縮小していきます。

ですから、立川のまちは今までハードな面でのまちづくり、例えば駅前のデッキ、デパート、イケア、ららぽーとなどが立地することで繁栄してきました。立川駅周辺に立飛の約4ヘクタールの土地があります。2020年4月にオープンする予定のホテル、音楽ホール、それから多摩地域の金融機関であります多摩信用金庫の本店ができます。そのほかにショッピングができる店舗用の建物、事務所用の建物ができます。年明けの2月に起工式を行う予定になっています。立川駅周辺のハードなまちづくりは、今申し上げた立飛の開発を除くと、もうほとんどありません。

それでは、今立川が享受している、多摩ナンバーワンの来街者を誇っているまちを、何らかの方法で大勢の方々に来ていただけるような政策を打っていかないといけない。ソフトの政策に力を入れて、立川の繁栄を持続していこうということで、第4次長期総合計画を立てました。第3次までは15年計画でまちづくりの方向性を決めてやってきましたが、

第4次の長期総合計画は10年にしました。

自治体同士の連携をする動きがあります。自治体はやり方は違いますが、ほとんど同じような仕事をしています。既に立川でも、人口や財政状況が同規模で、コンピュータシステムの改修の周期が同時期に当たっている日野市と三鷹市、3市で基幹システムの見直し、入れかえの方向をつくる協議をしています

立川市の職員は、1人当たり百何十人もの市民の皆さんの政策を進めていくことになりません。特に福祉部門の生活保護は、職員1人で市民100人を受け持つのが限度です。大きな話でいくと保育園は30人定員で15人のスタッフが必要になってきます。市境の保育園や出張所を共同で、あるいは図書館の利用を共同でという話があります。共同の話の中で運営を、民間活力を使うということがあります。市内に8つある図書館の分館は、全て民間業者に委託をして運営しています。本館だけは委託はしておりません。他にも保育園や体育館の運営を民間に委託しています。この2つを進めていくことによって、少ない職員でも自治体を運営できると思います。

今後、30年後には人口が15万人ほどに減っていくことを見据える中で、図書館や公民館などの公共建築物をたくさん持っています。立川市の公共の建築物は学校も入れて市民1人当たり2.44平米です。多摩26市の平均は1.99ですので、立川は多いです。なぜかというところ、財源に今まで恵まれてきたことが一番大きいです。立川競輪の60年間分の利益が市の一般会計へ繰り入れられた総額が、1,300億円を超えています。毎年、競輪の利益を市民生活の改善のために使用できたことが、公共建築物が多くなった理由だと思います。そして市民が手軽に各種の集会所を使って地域の集まりや学習会、いろいろ活動が盛んになりました。

問題は、市民1人当たり2.44平米の高い公共建築物の保有率を、人口が減る、競輪の利益が右肩下がり落ちて落ちてきています。毎年、10億も20億も利益を出してきた競輪が、最近では極端に言うところ年間2億円ほどに減りました。人口減が当然ですから、公共建築物の再編成、2つあったものを1つにするなど、利用率の高いものにしていきたいと思っています。あるものをなくす努力は大変なエネルギーや時間がかかります。しかし、それをしっかりやらなければ、後世の市民にまちをバトンタッチすることができないわけですから、過剰と思われるものは整理をしなければなりません。健全な財政状況を保ち、後世にバトンタッチをするという思いでいっぱいあります。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

2 意見交換

(参加者)

立川の強みで自分が考えたのが、JRが通っていて都心にも行きやすいですし、アクセスのよさはとてもいいと思います。また、立川はいろんなお店がそろっていて、私も立川で買い物をすることが多く、立川に降りるからこそ楽しめるものがあると思います。

立川市の弱みは、歩いていて休憩する場所があまりないと思います。北口には通りにベンチが置かれていますが、南口へ行くと休憩スペースというのがあまりないと感じます。それを踏まえて私が考えたことは、休憩スペースをつくった上で、コミュニティができるような、おじいちゃん、おばあちゃんとも話せるようなスペース、休憩しながら地元の人も話せる場所が必要と思いました。

(市長)

まず、交通の便がよろしいということですが、私はまだ足りないと思っています。特に、朝の中央線の上りの混雑は激しく身動きができない状態です。三鷹から東は複々線になっています。中央線が高架になっていますが、地下をもう1本、三鷹から立川まで地下をもぐって延伸し、複々線にする計画があり、都市計画決定を済ませています。さらに交通の便をよくしたいと考えています。

弱みの件は、まさにそのとおりです。南口は、区画整理に50年かかりました。50年前の計画なので、でき上がると路地のような狭い道路ばかりになってしまいました。なぜ50年かかったかという、南口の周辺の道路に面しているところは、ほとんどは小さな店舗であり、自前の不動産で店を持っている人がほとんどいません。利害関係が交錯しており、なかなか同じ方向へ行けないというのが一番の弱みです。

区画整理が終わったばかりなので、まだこのまちをもう1回何とかしようかという声は起きていません。南口の商店会の皆さんは、北口と同じような方向で進めるのではなく、小さな店舗でも営業が十分にできる食のまち、フードを売り物にしたまちづくりの方向性を立てて歩き始めたところです。ごちゃごちゃしたまちの中では、どうしても風紀が悪く、安全性や客引きなど、色々な人が出てきて、そのようなことが目立つようになってきました。それが一番の課題で、各部の職員は毎週1度、ボランティアで夜9時から2時間ぐらいパトロールをする、あるいは地元の商店会や自治会の皆さんがパトロールをしてくれています。

(参加者)

私が思う立川市の強みはイベントが多いところで、昭和記念公園の花火大会やまんぱくなど、私の友達も立川のイベントにはたくさん行っているの、若者が集まるイベントはすごくいいなと思っています。ほかにも南口でやっていたイベントでは、ファミリー層が多く集まっていて、若い人もファミリーも楽しめるイベントがあるというのはすごくいいことだと思います。

逆に立川市の弱みは、事前資料の15ページの住民ニーズアンケートを見たときに、自然災害の少なさを回答している人が最も少なく、立川の人たちは防災意識が低いと感じました。それを踏まえて、私たちのゼミでやっている企画でもありますが、防災意識を高めるために市内で防災ベンチを設置することを考えていまして、この防災ベンチを見ることで、防災意識が高まると思います。また、中に備蓄品を入れておくことで、いざというときに住民の人たちが、自衛隊とか消防の方が来る前に自分たちで救助活動ができます。

また、防災イベントをもっと実施すれば、立川市は防災モデル都市としても認定されているので、アピールになると思いますし、東京都内や日本の防災意識を高めるきっかけづくりにもなると思います。

(市長)

どうもありがとうございます。イベントが多いのは確かにそうです。例えば箱根駅伝の予選会は学生陸上競技連盟に立川市での開催を要望したり、自衛隊の滑走路からスタートさせてくださいというお願いをして、テレビでライブ放送していただけるようなことに育ってきました。地域の方々が大学駅伝の予選会で交通遮断されて不便になったとしても、全面的に協力してくれる体制があります。もともと、立川は大きな資源のないまちです。

ですからお祭やイベントによってまちを充実、発展させることができるということを市民全体の価値観として持っていることが、恵まれていると思います。

自然災害について、立川のまちは過去に大規模な自然災害に見舞われたことがありません。過去に災害を受けたまちとは違うような価値観があるのかもしれませんが。市としても、立川市内の12の自治連支部を中心とした区域で、避難訓練、救助訓練、起震車を利用した地震体験などを行うことで、防災意識を高めていこうとしています。立川のまちは、山もなし、川もなし、平坦な土地ばかりですから、南口のほうに多摩川との河岸段丘がありますが、それ以外はほとんど平らです。だから歩きでも自転車でも生活がしやすいというのが起因しているのかもしれませんが。

いずれにせよ、防災の意識は緩めては絶対にいけない、もっともっと高めていかなければならないと思っていますので、地域の防災訓練などを通じて意識の醸成を図ってまいりたいと思っています。

(参加者)

私が思う立川市の強みは、駅前にいろいろなお店があって、楽しくて遊ぶ場に困らないなどと思っています。大学生になってから立川市内の病院に通院しており、最初は通院がつかったのですが、駅が楽しいので最近は通院がとても楽しくて、立川が大好きです。

立川市の弱みは、地域コミュニティがしっかり築かれているところと、そうでないところの差があると思います。大山団地はとても有名で、全国的にも強固なコミュニティが築かれています。ほかのところは少し違う。ゼミで高松町の自治会の方にインタビューする機会があり、地域活動にも参加しています。普通に自治会として成り立っていますが、その方はまだ足りないとおっしゃっていたので、差があると思います。タワーマンションなどが増えてきていて、そこに住む方はあまり地域活動に参加しないので、どうやってコミュニティをつくっていくかが問題であると思います。

それを踏まえて私ができることは、立川の「あたみ」という、曙町、高松町、緑町の人たちの多世代交流の場にこれからも参加していくことです。立川市は若者の流入者、地方から大学進学や就労のために来る若者が多いというデータがあったので、そういう人を巻き込んでイベントなどを開催していけたらと思います。多世代交流の場を開催して、マンション住人の人を取り込み、世代を超えて顔なじみをつくっていったら、高齢化で孤独死や様々な問題を防いでいくことができると思います。

(市長)

ありがとうございます。地域活動、お手伝いありがとうございます。高松町は、ほとんどがまだ長く住んでいても2代目くらいの人が多いです。100年前、高松町周辺は松や栗の木の雑木林でした。それが立川を囲む東大和、武蔵村山、瑞穂など、立川より古い成り立ちを持つ土地の次男、三男の方が、駅の周辺の未利用地に移り住んできました。錦町や羽衣町も同様です。

南口で長い歴史を持っているのは柴崎町、ここが立川の成り立ちの最初だと言われている地域です。お寺や神社を中心として立川のまちは成り立ってきました。ですから北口の、特に高松町あたりは若いまちです。長い時間をかけてできる濃密な地域の連帯感がまだでき上がってきていないというのが実情です。しかし高松町の方々は、立川の町会の中では一、二を争うくらい地域活動を一生懸命やっている地域ですから、そんなに時間がかから

ずに、もっと濃密な地域交流が生まれるまちになると思います。

昼間は働きにでかけ、夜中は寝に帰ってくる人が多く住む傾向があるワンルームマンションがたくさんできていまして、横のつながりが少し希薄になっています。私が皆さんの世代のころは同級生が駅のすぐそばに住んでいました。自分たちはそこに住まないで、国立や東大和のほうへ住まいを移しかえて、駅前の土地は貸してビルを建てたり、あるいは開発業者に土地を売ったりという形になっています。北口ではタワーマンション以外はほとんど事務所、店舗ばかりになってしまいました。やはり地域の希薄性がでてきています。都市特有の悩みです。これを何とか食い止めよう、何とか復活させようという妙案は、なかなか浮かんでいません。駅周辺の治安の問題が一番の悩みです。正直に申し上げて、打開策が見つからないという状況です。

(参加者)

私が思う立川市の強みは、地理的に多摩地域の中央部に位置しており、JRの複数の線、モノレールが乗り入れていて、多摩地域のハブになっているという点、西東京における人材交流の中心地になっていると思います。また、同時にプロのバスケットボールチームを誘致したことから、文化やスポーツの発信地にもなりつつあるのかなと思います。

逆に立川市の弱みという点では、地域コミュニティの希薄性があると思います。立川市に住んでいる人たちは東京の中心地に出かけていくという点で、ベッドタウンみたいに夜だけ帰ってきているところが原因としてあると思います。

上記を踏まえて大学生世代ができることは、地域を巻き込んでプロチームとかの応援をすれば、若い世代が興味を持っているから、上の世代も一緒に行ってみようということが望めると思います。

(市長)

どうもありがとうございました。立川が多摩地域の中心という形でこれからもさまざまな整備がされていくと思います。そのきっかけはモノレールです。モノレールができたことによって、多摩地域をぐるっと回る計画になっています。上北台の駅から八高線の箱根ヶ崎に続くような事業を今、展開しています。次が多摩センター駅から町田へ抜けていく計画です。

それから、コミュニティの希薄さは皆さん感じていますが、自治会の皆さんを中心としてコミュニティの活性化を図ろうということで、一生懸命やってもらっています。今年初めて、自治会活動がきわめて優秀であるということで、立川市の自治会連合会が表彰を受けることになっています。

(参加者)

しかし、自治会の加入率も低下しており、自治会に頼るといふところに限界性があるのではないのでしょうか。

(市長)

自治会加入率は約42%で、他の自治体に比べて高い方だと思います。アンケートをとると自治会は重荷という人が多いらしいです。例えばスポーツ活動など、別のアイテムを使って地域のつながりをつくっていくのも良いと思います。ただ、基本は自治会です。災害対応、地域の中の孤独死を防ぐための対応にしても、まずは自治会が中心となってやっていかなければ、手厚い施策、対応ができないということですから、市としても自治会の皆

さんの応援をしてみたいと思います。

(参加者)

立川市の強みとしては、駅前の発展というのが挙げられると思います。それとは別に昭和記念公園なども安らぎという部分も強みになっていると考えています。また、IT系企業の事務所などの集積という社会需要で、立川市が発展していると考えています。

一方で、立川市の弱みとしては、今後の少子高齢化で人口減少や高齢化、25歳から40歳男女の転出という部分、多摩地域での製造業が立川市は低いことが弱みと考えています。

少子高齢化の生産人口を増加するためには、就労の場の増加、少子化対策が欠かせないということで、例えば少子化対策は女性の社会進出のために、空き家の条例が平成30年に施行されるということで、空き家の再利用をもっと活発化する。また子育て環境、地域コミュニティ、近所づきあいをさらに増やして、子育て環境を整えることで少子化対策に近づけていくべきと考えました。

上記を踏まえて、大学生世代ができることとしては、まずは住みよい地域にしていくということで、とても小さいことですが、例えば電車やバスで席を譲る、ごみを拾う、困っている人に声をかけるということで住みよい場所になる。子育て環境という面では、地域コミュニティで何が一番足りないのかを聞いていくことが、自分たちにできることだと考えています。

(市長)

ありがとうございます。製造業が弱いのはおっしゃるとおりです。実は、南口の錦町という地域はかつて製造業の拠点でしたが、周辺の住民の皆さんからの、騒音等の問題で排除された過去の歴史があり、転出を余儀なくされました。

子育ての関係で、社会的に問題となっている待機児童の解消を、全力で図っています。本市の保育園の待機児は130人程います。来年の4月には、320名程度の定員増を図ります。それと企業保育をお願いしまして、定員を160名程増やしていただけます。法律の中で、定員の半分は企業でなくて、地域の子供たちを預かることになっていますので、大体、来年の4月になると400名を超す受け入れ体制が整う予定です。

日本でも有数と言われる先駆的な考え方をもとに、第一小学校を建て替えたところ、学校の周辺に子育て世代がどっと押し寄せました。それまで柴崎町の第一小学校の学区には、学童保育所が要りませんでした。学童保育所をわざわざ建てるまでもなく、子供たちがそれぞれの家庭で見てもらっている、あるいは周辺の学童保育所へ預けることで足りていました。ところが、一挙に第一小学校の学区は学童保育所の待機児が生まれて、今、立川市内で一番待機児童が多いのは第一小学校になってしまいました。第一小学校という日本でも一、二を争うような先駆的な学校ができたので、そこへ子供を入れたいということで人が集まってきたということが起きました。保育園も同様です。最先端の保育をしてくれるという話があると、そこへ子育て世代が集まる。これはなかなか読み取れませんが、それを抜きにしても、来年の4月には保育園の待機児はゼロにする。計算上は今の待機児の2倍の定員を確保できるわけですから、達成できると思っています。

ごみ拾いや声かけなど、いろんなご提案をいただきました。小規模ですけれども、例えば学校の登下校には老人会の皆さんがボランティアで出てくれて旗振りをやってくれるとか、あるいは地域の声かけを、子供だけで遊んでいるグループを見つけたら一言大人が声

をかけようという運動も始まりました。ごみ拾いにつきましても、子ども会の事業、ボーイスカウトの事業の中でやってもらっておりますから、もう少し時間が経つと全市的な、手厚い方向になっていただけると期待をしております。

(参加者)

立川市の強みについて、1つは交通の利便性、中央、青梅線はもとより多摩地域に少ない南北方向のモノレールや、川崎とつながっている南武線も重視していいと思いました。また、立川にしかないものは、国の研究機関や国の施設、すぐ近くに防災施設などが多数存在していること、これが強みと私は考えました。まちのにぎわい、商業圏としての活力、勢いがあることも挙げられると思います。

2つ目、立川の弱みに関して、駅前が非常ににぎわっていることは良いことですが、多少治安が悪いイメージを持たれる、同じイメージの話で、立川断層という言葉がひとり歩きして、地震のリスクが大きいのではないかといったイメージを持たれていることが、弱みとして挙げられると思います。箱根ヶ崎断層と名前が変わるという話もありますので、イメージの対策はできると思います。一番大きいものは20代、30代を中心に人口が流出してしまうことにあると思います。

立川をよりよくしていくために私が考えたことは、10代、20代で地方から立川に出てくる人が多いという話がありましたので、その人たちに立川を第二の故郷的に思ってもらえば、その後ライフステージが変わるときにも立川に住み続けていきたいと思ってもらえればよいと思いました。

これに対する、大学生世代ができることは難しいですけど、東日本大震災以降、言われて久しいコミュニティですとか地域のつながりを感じる事が大切だと思いますので、コミュニティ醸成の一環を担うためにボランティア活動をやっていくことが大切かなと思いました。私が立川市の皆様に一つ考えていただきたいことがございまして、学生にボランティアをやるためのインセンティブ、報奨や動機づけを考えていただきたいなと思いました。報奨といいましても、直接的に現金や物はだめだと思いますが、大きくボランティアで貢献した学生には、立川市から表彰や認定証、認定をしていただきまして、学生も自分がボランティアをした実績をもとに自信がつくので、Win-Winの関係ができるのではないかと考えました。

(市長)

ありがとうございました。立川の強みは皆さんからおっしゃっていただいております、まさにそのとおりだと思います。国立極地研究所の南極観測へ行く隊員は、実は立川から出発します。毎年、春から夏にかけて市役所の南側の広場には、莫大な量の荷物が集まり、そして南極へ出かけていきます。そのような基地にもなっています。

断層の件に関しましては、日産自動車の村山工場の跡地において、東京大学の地震研究所の先生が日本で初めてと言われる、深さ20メートル、長さ200メートルを掘り起こして断層の有無を研究しました。その結果、断層が活動したと思われる痕跡は認められませんでした。箱根ヶ崎断層は確認できたようですから、ぜひ、私も機会あるごとにこの話をしております。

それから流出人口について、25歳から29歳は男女ともに立川市から出ていきます。女性の流出率の方が多いです。女性の人口流出を防ぐために、職員でプレミアム婚姻届を考え

ました。1部1,000円で売っています。市内の紙を加工する工場に依頼してプレミアム婚姻届をつくっています。全部手作りなので、年間で大体1,500通から2,000通しか作れません。新しいものが入荷すると3カ月ほどで完売してしまいます。今、日本中にこのプレミアム婚姻届が広がっているようです。

もう一つは、市内にあるパレスホテルやグランドホテルなどが協働してウエディング推進会を展開しています。本物の結婚式を昭和記念公園で行うなど、立川で結婚式を挙げて立川に定住してもらう機運を盛り上げるために、一生懸命に取り組んでいます。

ボランティアの話ですが、いいアイデアですね。一つのボランティアをするきっかけにさせていただいて、それが学生のプラスになっていく。例えば就職のときの履歴書の中に立川市認定ボランティア証と書いてもらえると、市としても多少のお返しができるのではないかと感じています。

(参加者)

立川市の強みは、交通利便性の高さを生かして、立川駅の周辺エリアに商業施設などが立地しており、アクセスが容易でかつ多様なニーズにも応えることができ、他地域からの多くの買い物客などを集めているという点です。

交通利便性の高さについて、私が大学生の地方から来たひとり暮らしの人に聞きますと、多摩都市モノレールの料金が高く、ららぽーとにはあまり行っていないとのことでした。例えば多摩センターや高幡不動まで行き、京王線で新宿まで行く方が安いということです。多摩センターは最近、多摩ニュータウンなど多くの事業によって充実してきているので、そちらに通うという意見が多くありました。

また、立川市の弱みとして地域コミュニティの低下があると感じています。私も今、柴崎町に住んでおり、高齢者の方が小中生に対して朝、挨拶をする、シルバー人材センターの人たちが協力して旗振りなどをしてくれています。高齢者間のつながりは強いと感じるのですが、一方で若い世代の人たちの活動が見受けられないという点があります。もう一つは自然環境という面で、北口には昭和記念公園がありますが、南口にはそういった公園などがなくて、子育てや子供にとって充実した環境は少ないと感じています。

また、残堀川や根川などで週2回、ごみ拾いの個人のボランティアをしています。ごみがとても多く、特に立日橋近辺の根川はごみが多く捨てられています。若い世代の人たちがそれを見て住みたいとは思わないはずであり、立川市の弱みだと感じています。それを踏まえた上で、例えば立川市がもっとSNSを使い、多くのユーザーが使うLINEなどを発行し、大学生や若い人たち、これから子育てをしていく人たちのコミュニティの場をつくり上げて、その中で地域清掃などのボランティアを通じて若者と高齢者との交流を深めていくことができると考えています

(市長)

モノレールの料金が安いというお話ですが、私もモノレール株式会社の役員という立場で経営の内容はよくわかっているつもりで、まだ累積赤字が解消できていない状況です。4年ほど前からようやく単年度黒字になりました。多摩地域での延伸計画も進めなければならぬという中では、やむを得ないと思います。東京モノレールなどと比較して大体、同レベルの料金設定です。日本中のモノレールはみんな高いです。市街地に整備するため、地面の上を鉄路で走らせるのと違い、数倍の経費が必要なようです。ただ、コンパクトに

できるので、既成市街地につくるのは鉄道よりもモノレールのほうが簡単にできます。東大和、日野、多摩、八王子、立川、5市関係していますが、モノレールを運営する事業所に対し、他市が免除する税額に比べ、立川はより多くの税額を免除しております。早期に多摩全体、90キロを越すループの実現を目指しています。

立川のコミュニティが希薄であるというお話で、ご提案のあったSNSの利用による場づくりを市としても考えていかなければならないと思います。SNS等が若者と高齢者を結ぶ一助になっていけばいいなど、これは研究してみたいと思います。

(参加者)

立川市の強みは、広域防災基地の存在が大きいと思います。市民の方々の安心につながっていると思います。また、防災イベントなども開かれていて、市を通しての防災意識も高いと思いました。立川市の弱みは、多くの人が集まれるような環境のいい公園が少ないと感じます。北口には昭和記念公園がありますが、南口には遊具が1つ2つしかない公園しかなく、少しもったいないと感じました。

上記を踏まえて大学生世代のわたしができることですが、東京経済大学鈴木ゼミで資金を集めて立川市に防災ベンチを設置する企画を行っています。普段はベンチとしても使え、災害時にかまどや防災備品を入れる収納やトイレになったりするベンチを置くことで、多くの人憩いの場になり、地域コミュニティの向上にもつながると思います。また、設置された防災ベンチを市民が見ることで市民の防災意識が高くなり、広域防災基地などの存在と市民の意識が高まることによって、防災面でより立川市の強みが増すと思っています。

(市長)

どうもありがとうございました。広域防災基地は、立川だけではなく国の防災基地として、東日本大震災のときは立川駐屯地がその役を担い、全国から来る物資やヘリなどの中継基地になりました。さまざまな防災関係の職員や機動隊もいますので、そういう中では臨戦態勢に常にあるというのが、防災基地全体のイメージですね。

映画のシン・ゴジラ、見た方はいますか。第二首相官邸やモノレール基地が出ました。広域防災基地があるということで立川の名前は知れているのですが、日常的な市民の啓発活動につながっているかという、必ずしも立川市として、あるいは市民として、せっかくあるのに活用できていないという場面もあります。これは防災担当に伝えて、もう少し広域防災基地を市民利用ができるような方策を考えるということで伝えていきます。

それから防災ベンチ、ぜひよろしくお願いします。この建物の北側に防災ベンチがあるので、もしよかったら帰りに見てみてください。北口のたましん本店の横の公園にできたらいいですね。もう少し具体的になったら、いろいろ進めていただければと思います。ありがとうございました。